

平成26年7～9月期結果(確報)の概要

I 今期の概況

1 今期の個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I

① 今期の業況判断

今期（平成26年7～9月期）の業況判断D Iは (-)65.3 で、前期（平成26年4～6月期）(-62.0)に比べ、3.3ポイントの悪化。

② 来期の見通し

来期（平成26年10～12月期）の業況見通しD Iは (-)60.4 で、今期の業況判断 (-65.3) に比べ、4.9ポイントの改善の見通し。

図1 業況判断D Iの推移 — 調査産業計 —

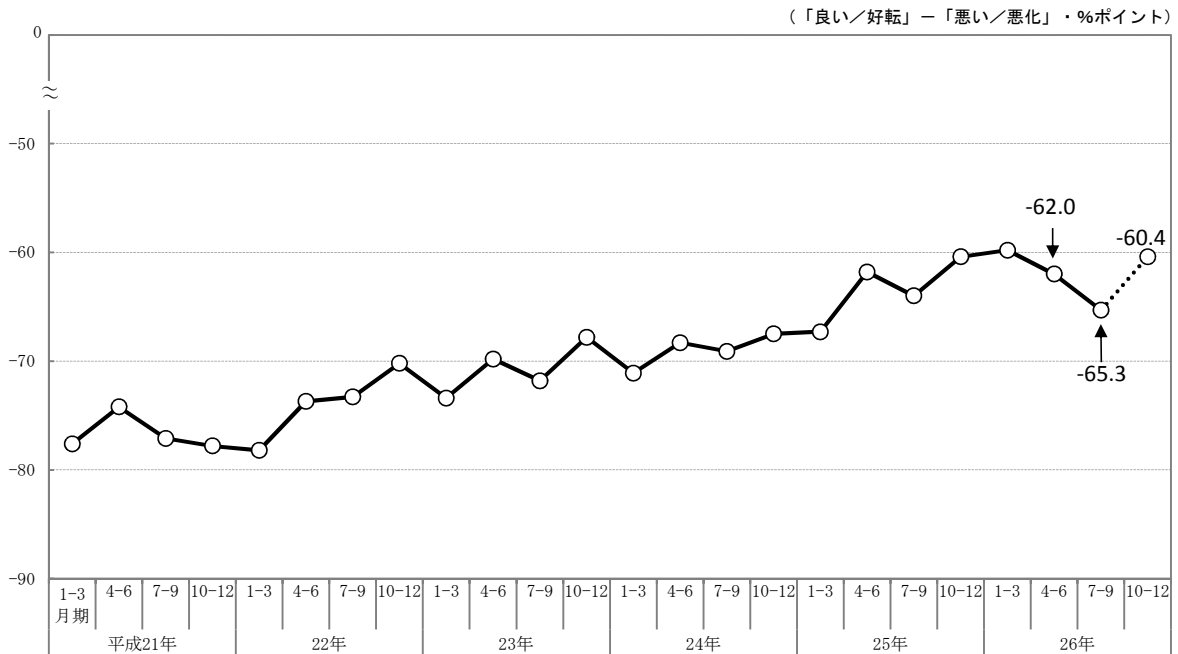


表1 業況判断の割合 — 調査産業計 —

	平成25年		26年				
	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期 見通し	
今期の業況, 来期の業況 (%)							
良い/好転	3.0	4.1	4.3	3.7	2.9	2.2	
普通/不変	30.0	31.4	31.6	30.6	28.9	35.2	
悪い/悪化	67.0	64.5	64.1	65.7	68.2	62.6	
D I	-64.0	-60.4	-59.8	-62.0	-65.3	-60.4	
参考	日銀短観(大企業全産業計)	13	18	21	16	13	14
	中小企業景況調査(全産業計)	-29.0	-25.0	-24.7	-27.6	-28.3	-15.6

(注) 「中小企業景況調査」：(独) 中小企業基盤整備機構作成

(注) 今期の調査票回収時期は、平成26年10月上旬から中旬までである。

2 今期の売上高及び営業利益

① 今期の1事業所当たりの売上高は、			
□「製造業」は	231万4000円で、	前年同期に比べ、	9.2%の増加
□「卸売業、小売業」は	414万6000円で、	前年同期に比べ、	4.5%の増加
□「宿泊業、飲食サービス業」は	216万8000円で、	前年同期に比べ、	0.5%の増加
□「サービス業」は	123万円で、	前年同期に比べ、	3.5%の減少
② 今期の1事業所当たりの営業利益は、			
□「製造業」は	62万6000円で、	前年同期に比べ、	3.8%の減少
□「卸売業、小売業」は	37万円で、	前年同期に比べ、	17.0%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	42万円で、	前年同期に比べ、	3.0%の減少
□「サービス業」は	43万3000円で、	前年同期に比べ、	0.9%の減少

※前年同期(平成25年7～9月期)

表2 産業別売上高及び営業利益

(1事業所当たり)

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業			
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益		
実数 (千円)	平成24年	7～9月期	2,332	612	4,201	433	2,164	354	1,171	416	
		10～12月期	2,682	765	4,431	435	2,189	390	1,291	463	
	平成25年	1～3月期	2,086	563	3,948	368	2,058	383	1,232	427	
		4～6月期	2,183	630	3,932	398	2,087	424	1,405	522	
	平成26年	7～9月期	2,119	651	3,969	446	2,158	433	1,274	437	
		10～12月期	2,474	676	4,376	441	2,249	406	1,274	448	
	前年同期比 (%)	平成24年	7～9月期	10.6	-0.5	-3.2	-8.5	-1.3	-20.6	-6.2	-9.2
			10～12月期	13.5	13.5	-1.0	-2.7	3.6	-2.5	-0.8	-8.3
	平成25年	1～3月期	-16.1	-11.1	-0.2	-4.4	4.8	5.5	11.8	7.8	
		4～6月期	-12.5	4.0	-8.1	-4.1	0.0	21.8	16.7	16.8	
平成26年	7～9月期	-9.1	6.4	-5.5	3.0	-0.3	22.3	8.8	5.0		
	10～12月期	-7.8	-11.6	-1.2	1.4	2.7	4.1	-1.3	-3.2		
平成26年	1～3月期	9.9	16.2	1.5	25.8	-1.9	-11.0	-10.6	-17.6		
	4～6月期	-2.4	-2.7	1.2	8.3	3.2	-5.2	-13.9	-12.6		
		7～9月期	9.2	-3.8	4.5	-17.0	0.5	-3.0	-3.5	-0.9	

3 今期の設備投資額

① 今期の1事業所当たりの設備投資額は、			
□「製造業」は	10万4000円で、	前年同期(13万9000円)に比べ、	減少
□「卸売業、小売業」は	8万5000円で、	前年同期(8万1000円)に比べ、	増加
□「宿泊業、飲食サービス業」は	7万7000円で、	前年同期(7万8000円)に比べ、	減少
□「サービス業」は	4万円で、	前年同期(4万5000円)に比べ、	減少
② 今期の1事業所当たりの設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は、			
□「製造業」は	4.5%で、	前年同期(6.6%)に比べ、	2.1ポイントの低下
□「卸売業、小売業」は	2.1%で、	前年同期(2.0%)に比べ、	0.1ポイントの上昇
□「宿泊業、飲食サービス業」は	3.6%で、	前年同期(3.6%)と同率	
□「サービス業」は	3.3%で、	前年同期(3.5%)に比べ、	0.2ポイントの低下

※前年同期(平成25年7～9月期)

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

(1事業所当たり)

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)
平成24年	7～9月期	100	4.3	71	1.7	115	5.3	91	7.8
	10～12月期	131	4.9	60	1.4	64	2.9	74	5.7
平成25年	1～3月期	65	3.1	100	2.5	64	3.1	125	10.1
	4～6月期	56	2.6	118	3.0	59	2.8	63	4.5
平成26年	7～9月期	139	6.6	81	2.0	78	3.6	45	3.5
	10～12月期	122	4.9	89	2.0	89	4.0	44	3.5
平成26年	1～3月期	116	5.1	83	2.1	87	4.3	73	6.6
	4～6月期	85	4.0	68	1.7	45	2.1	75	6.2
	7～9月期	104	4.5	85	2.1	77	3.6	40	3.3

Ⅱ 業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年7～9月期）の業況判断D Iは（-）65.3で、前期（平成26年4～6月期）（-62.0）に比べ、3.3ポイント悪化した。

イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）51.8で、前期（-45.7）に比べ、6.1ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成25年7～9月期）と比較した業況判断D Iは（-）55.3で、前期（-51.9）に比べ、3.4ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成26年10～12月期）の業況見通しD Iは（-）60.4で、今期の業況判断（-65.3）に比べ、4.9ポイントの改善の見通しとなっている。

図2 業況判断D Iの推移 —調査産業計—

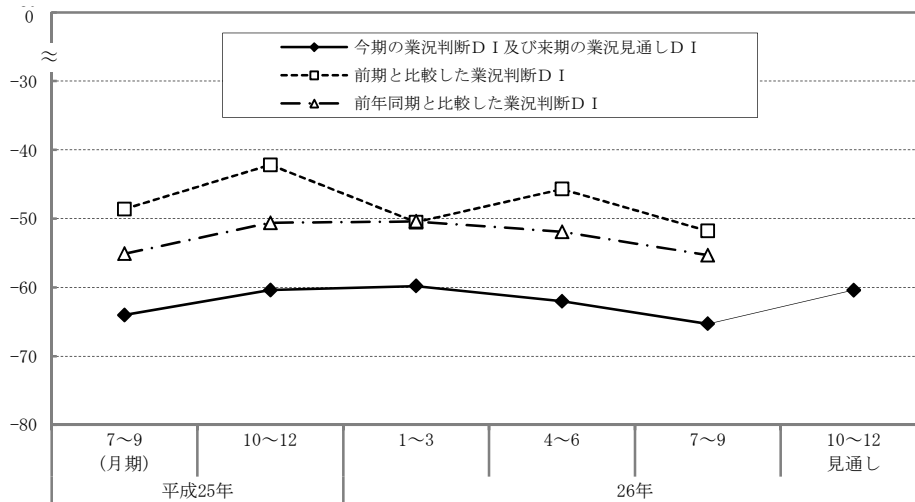
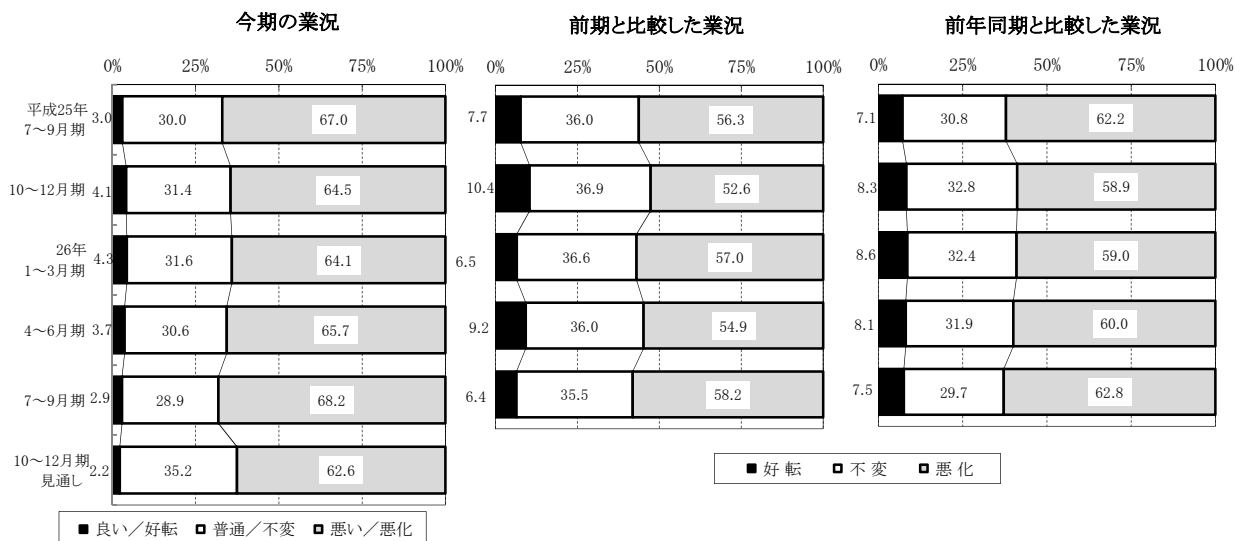


図3 業況判断の割合 —調査産業計—



(2) 売上の状況

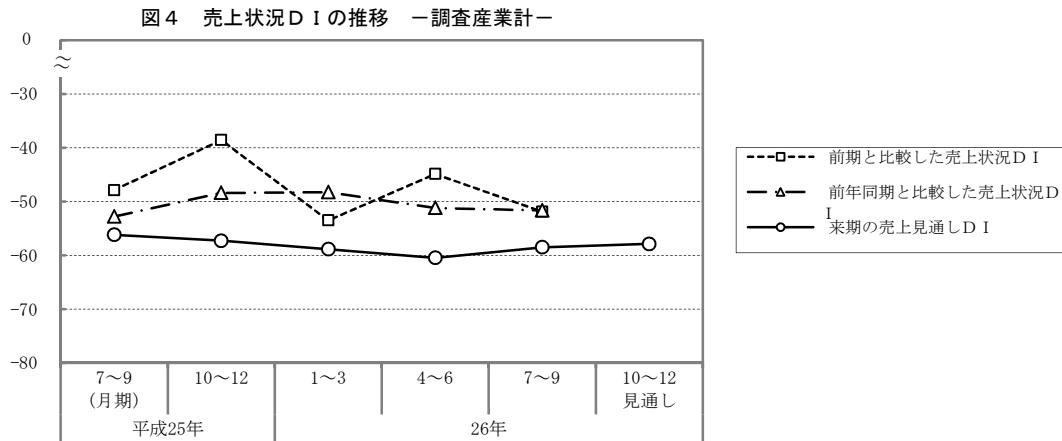
① 今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)51.9 で、前期 (-44.9) に比べ、7.0 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)51.7 で、前期 (-51.2) に比べ、0.5 ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)57.9 で、前期における今期の売上見通し (-58.5) に比べ、0.6 ポイントの改善の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

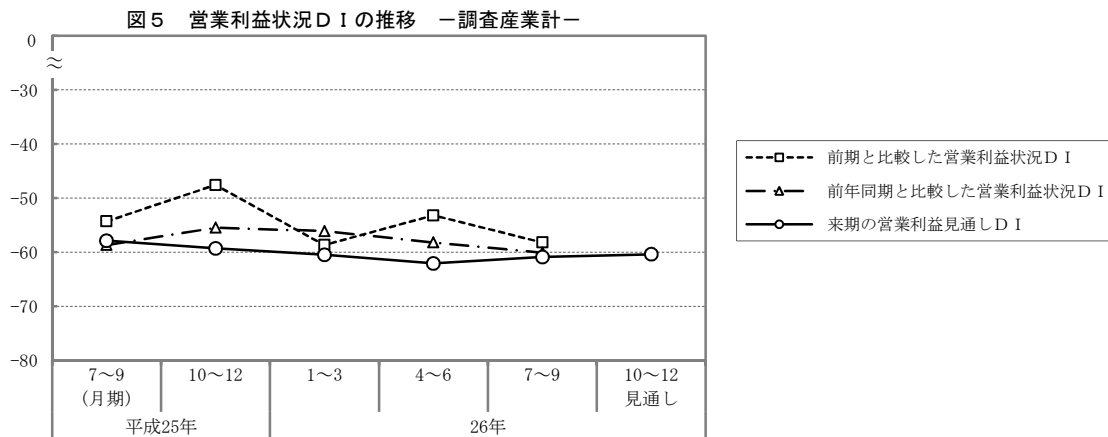
① 今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)58.2 で、前期 (-53.2) に比べ、5.0 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)60.1 で、前期 (-58.2) に比べ、1.9 ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

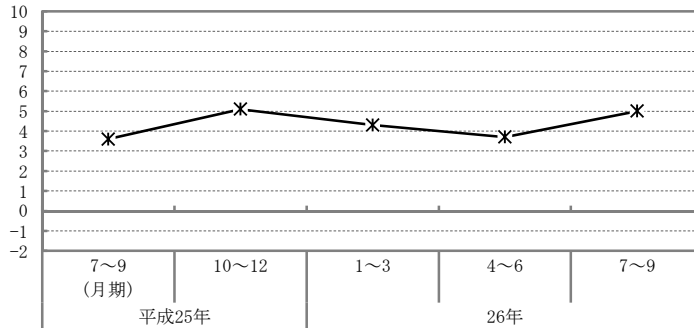
来期の営業利益見通しD Iは (-)60.4 で、前期における今期の営業利益見通し (-60.9) に比べ、0.5ポイントの改善の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)5.0 で、前期 (+3.7) に比べ、1.3ポイント「過剰」が拡大した。

図6 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -調査産業計-

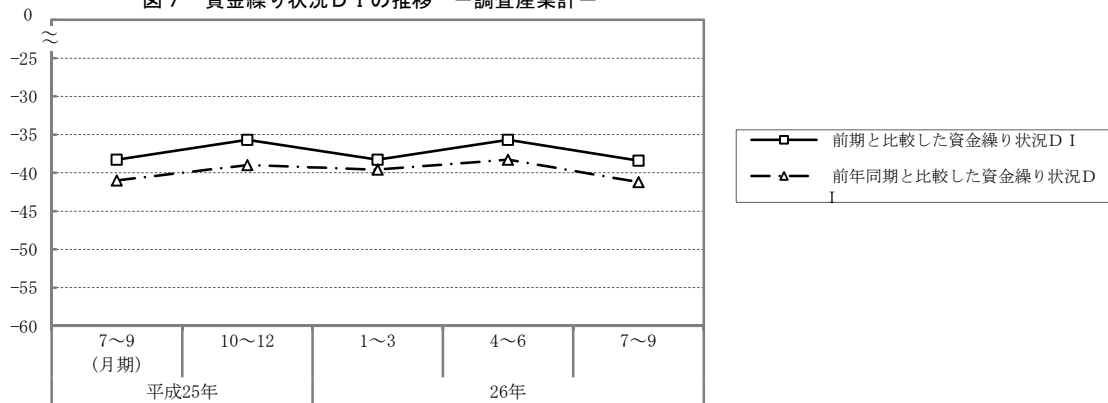


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)38.4 で、前期 (-35.7) に比べ、2.7ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)41.2 で、前期 (-38.3) に比べ、2.9ポイント悪化した。

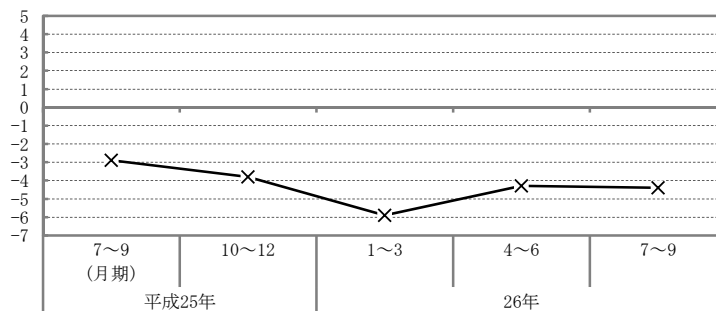
図7 資金繰り状況DIの推移 -調査産業計-



(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)4.4 で、前期 (-4.3) に比べ、0.1ポイント「不足」が拡大した。

図8 雇用状況DIの推移 -調査産業計-



2 製造業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年7～9月期）の業況判断DIは(-)51.7で、前期（平成26年4～6月期）(-47.4)に比べ、4.3ポイント悪化した。

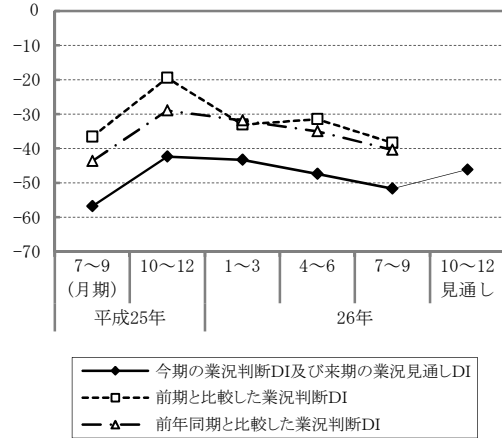
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)38.4で、前期(-31.5)に比べ、6.9ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成25年7～9月期）と比較した業況判断DIは(-)40.4で、前期(-35.0)に比べ、5.4ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成26年10～12月期）の業況見通しDIは(-)46.1で、今期の業況判断(-51.7)に比べ、5.6ポイントの改善の見通しとなっている。

図9 業況判断DIの推移
—製造業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

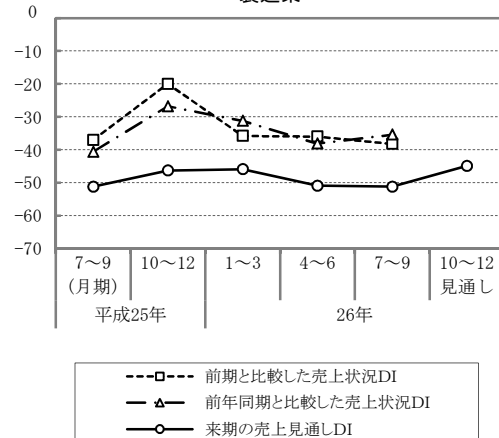
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)38.2で、前期(-36.0)に比べ、2.2ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)35.4で、前期(-38.1)に比べ、2.7ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)44.9で、前期における今期の売上見通し(-51.2)に比べ、6.3ポイントの改善の見通しとなっている。

図10 売上状況DIの推移
—製造業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

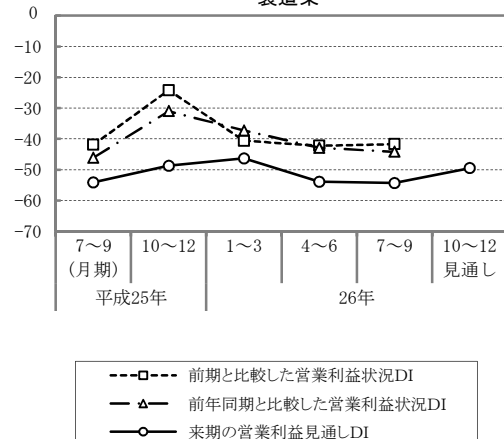
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)41.7で、前期(-42.2)に比べ、0.5ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)44.2で、前期(-42.9)に比べ、1.3ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)49.5で、前期における今期の営業利益見通し(-54.3)に比べ、4.8ポイントの改善の見通しとなっている。

図11 営業利益状況DIの推移
—製造業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)3.3 で、前期 (+2.8) に比べ、0.5 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)29.9 で、前期 (-28.7) に比べ、1.2 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)34.5 で、前期 (-31.3) に比べ、3.2 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)3.1 で、前期 (-2.7) に比べ、0.4 ポイント「不足」が拡大した。

図12 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -製造業-

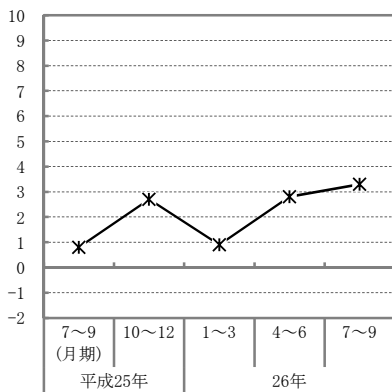


図13 資金繰り状況DIの推移 -製造業-

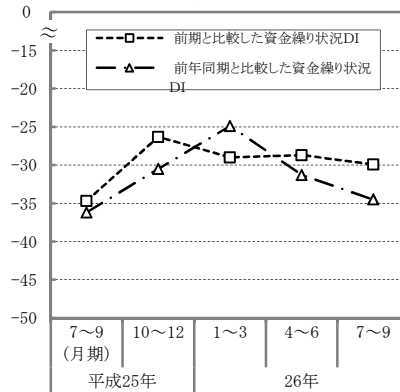
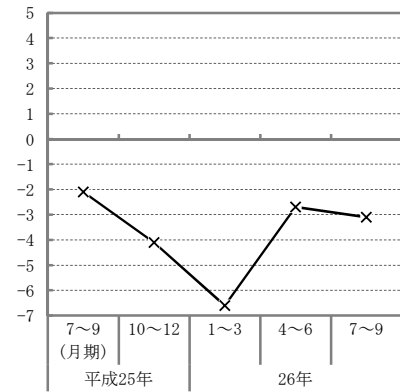


図14 雇用状況DIの推移 -製造業-



3 卸売業, 小売業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期 (平成26年7~9月期) の業況判断DIは (-)71.5 で、前期 (平成26年4~6月期) (-67.2) に比べ、4.3 ポイント悪化した。

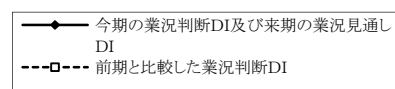
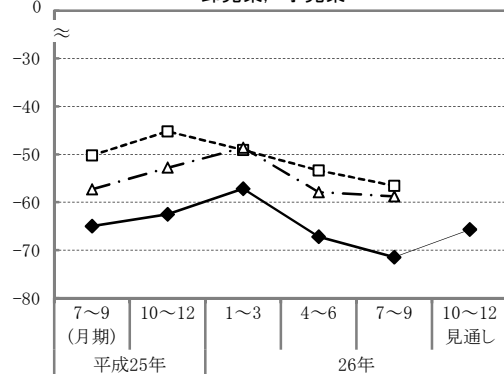
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)56.6 で、前期 (-53.4) に比べ、3.2 ポイント悪化した。

ウ 前年同期 (平成25年7~9月期) と比較した業況判断DIは (-)58.8 で、前期 (-57.9) に比べ、0.9 ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期 (平成26年10~12月期) の業況見通しDIは (-)65.7 で、今期の業況判断 (-71.5) に比べ、5.8 ポイントの改善の見通しとなっている。

図15 業況判断DIの推移 -卸売業, 小売業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

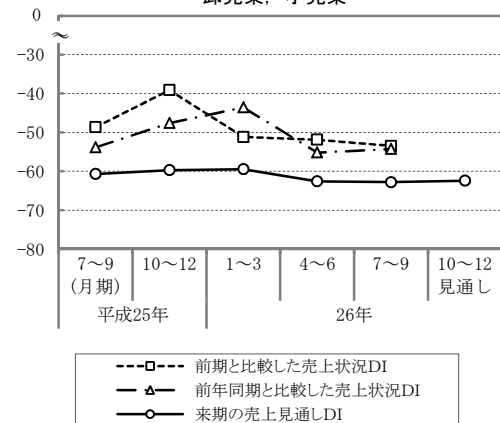
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)53.5で、前期(-51.9)に比べ、1.6ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)54.3で、前期(-55.2)に比べ、0.9ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)62.4で、前期における今期の売上見通し(-62.8)に比べ、0.4ポイントの改善の見通しとなっている。

図16 売上状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

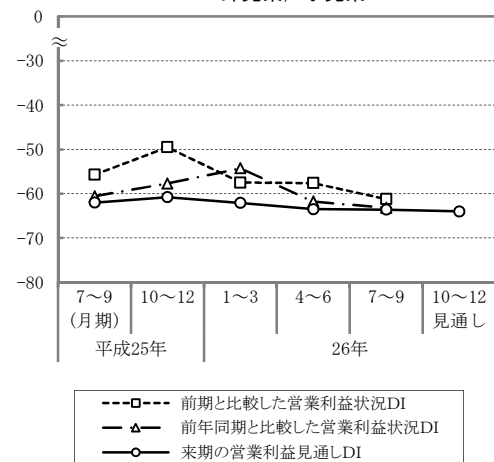
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)61.2で、前期(-57.6)に比べ、3.6ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)63.2で、前期(-61.8)に比べ、1.4ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)64.0で、前期における今期の営業利益見通し(-63.6)に比べ、0.4ポイントの悪化の見通しとなっている。

図17 営業利益状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)8.3で、前期(+)4.9)に比べ、3.4ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)41.8で、前期(-38.4)に比べ、3.4ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)45.0で、前期(-39.7)に比べ、5.3ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)3.9で、前期(-5.2)に比べ、1.3ポイント「不足」が縮小した。

図18 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -卸売業, 小売業-

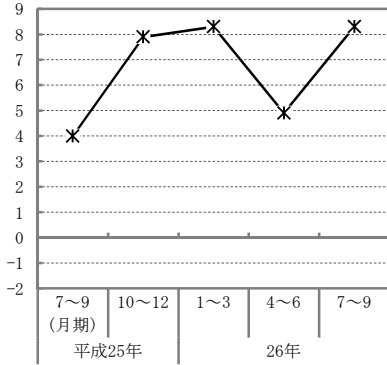


図19 資金繰り状況DIの推移 -卸売業, 小売業-

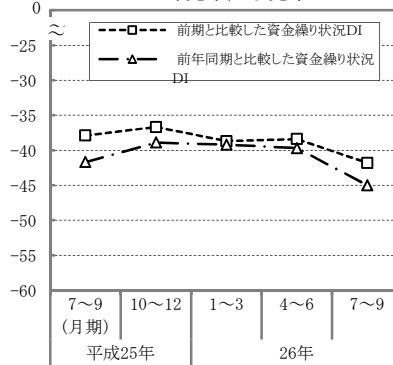
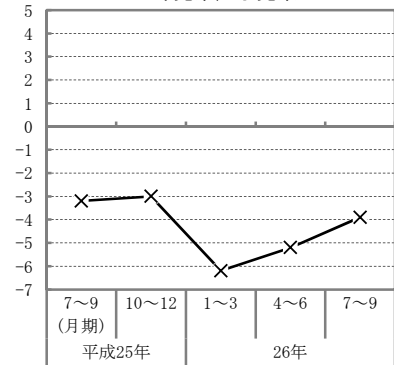


図20 雇用状況DIの推移 -卸売業, 小売業-



4 宿泊業, 飲食サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年7～9月期）の業況判断DIは(-)58.1で、前期（平成26年4～6月期）(-59.1)に比べ、1.0ポイント改善した。

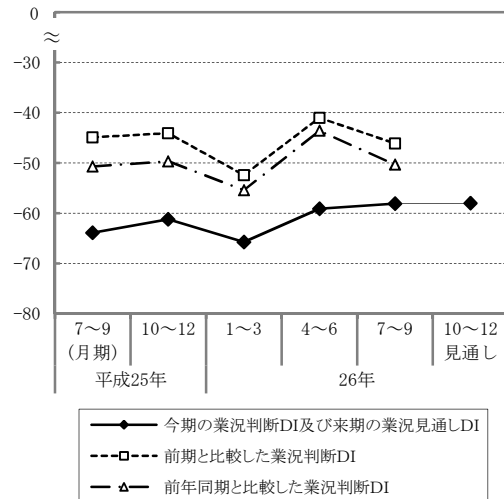
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)46.1で、前期(-41.0)に比べ、5.1ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成25年7～9月期）と比較した業況判断DIは(-)50.3で、前期(-43.6)に比べ、6.7ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成26年10～12月期）の業況見通しDIは(-)58.0で、今期の業況判断(-58.1)に比べ、0.1ポイントの改善の見通しとなっている。

図21 業況判断DIの推移 -宿泊業, 飲食サービス業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

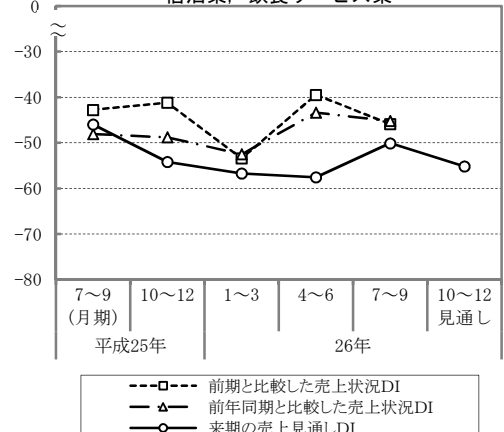
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)45.9で、前期(-39.5)に比べ、6.4ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)45.2で、前期(-43.4)に比べ、1.8ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)55.2で、前期における今期の売上見通し(-50.1)に比べ、5.1ポイントの悪化の見通しとなっている。

図22 売上状況DIの推移 -宿泊業, 飲食サービス業-



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

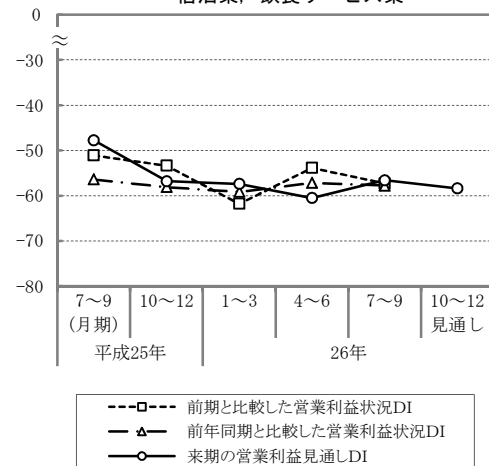
ア 前期と比較した営業利益状況DIは (-)57.3 で、前期 (-53.9) に比べ、3.4ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは (-)57.8 で、前期 (-57.2) に比べ、0.6ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは (-)58.4 で、前期における今期の営業利益見通し (-56.6) に比べ、1.8ポイントの悪化の見通しとなっている。

図23 営業利益状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)1.5 で、前期 (+1.9) に比べ、0.4ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)41.0 で、前期 (-37.5) に比べ、3.5ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)42.4 で、前期 (-40.4) に比べ、2.0ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)7.9 で、前期 (-5.5) に比べ、2.4ポイント「不足」が拡大した。

図24 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

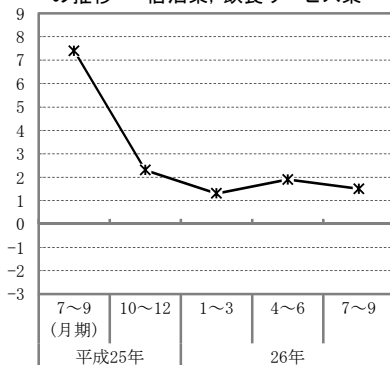


図25 資金繰り状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

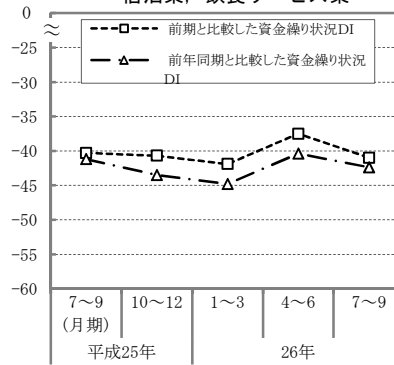
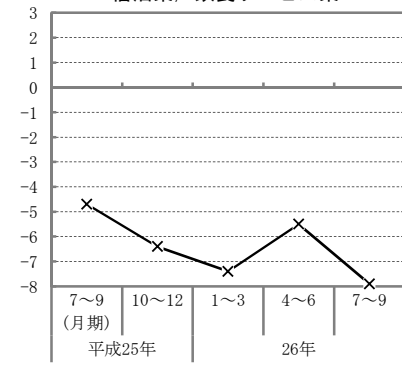


図26 雇用状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



5 サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成26年7～9月期）の業況判断DIは(-)68.6で、前期（平成26年4～6月期）(-65.2)に比べ、3.4ポイント悪化した。

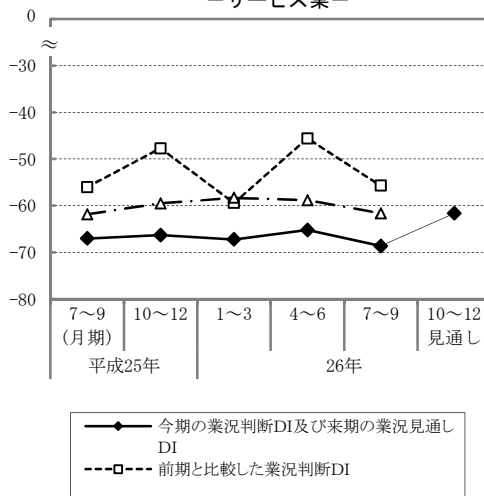
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)55.7で、前期(-45.6)に比べ、10.1ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成25年7～9月期）と比較した業況判断DIは(-)61.6で、前期(-58.8)に比べ、2.8ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成26年10～12月期）の業況見通しDIは(-)61.6で、今期の業況判断DI(-68.6)に比べ、7.0ポイントの改善の見通しとなっている。

図27 業況判断DIの推移
—サービス業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

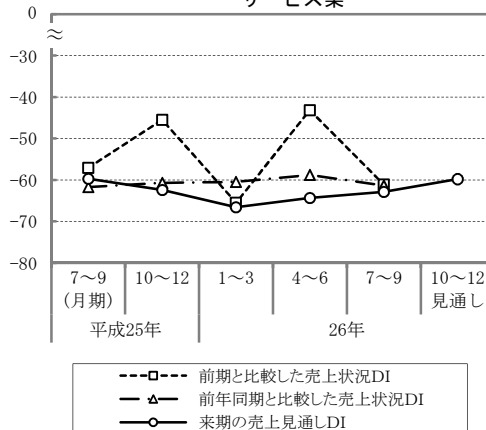
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)61.1で、前期(-43.2)に比べ、17.9ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)61.3で、前期(-58.8)に比べ、2.5ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)59.8で、前期における今期の売上見通し(-62.9)に比べ、3.1ポイントの改善の見通しとなっている。

図28 売上状況DIの推移
—サービス業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

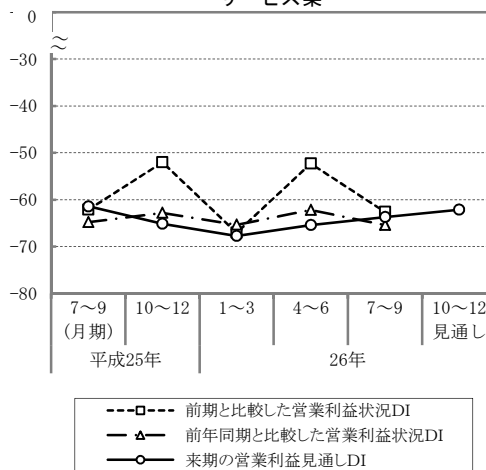
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)62.6で、前期(-52.3)に比べ、10.3ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)65.4で、前期(-62.2)に比べ、3.2ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)62.1で、前期における今期の営業利益見通し(-63.7)に比べ、1.6ポイントの改善の見通しとなっている。

図29 営業利益状況DIの推移
—サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)3.8 で、前期 (+3.9) に比べ、0.1 ポイント「過剰」が縮小した。

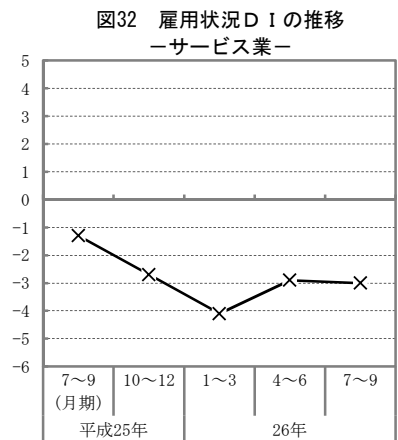
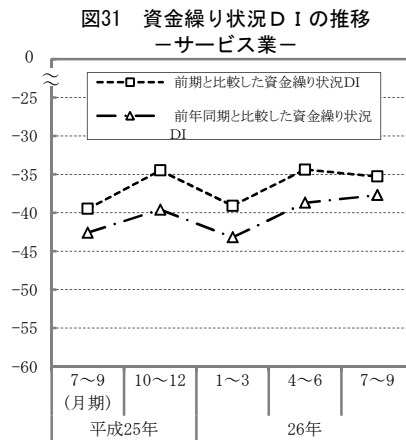
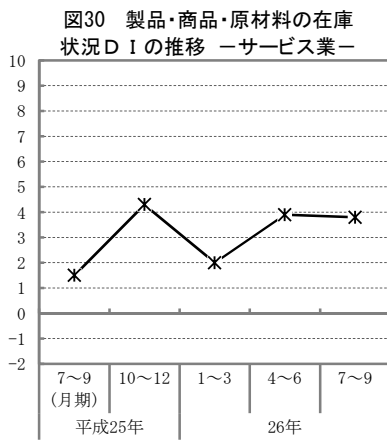
(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)35.3 で、前期 (-34.4) に比べ、0.9 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)37.7 で、前期 (-38.7) に比べ、1.0 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)3.0 で、前期 (-2.9) に比べ、0.1 ポイント「不足」が拡大した。



Ⅲ 営業収支

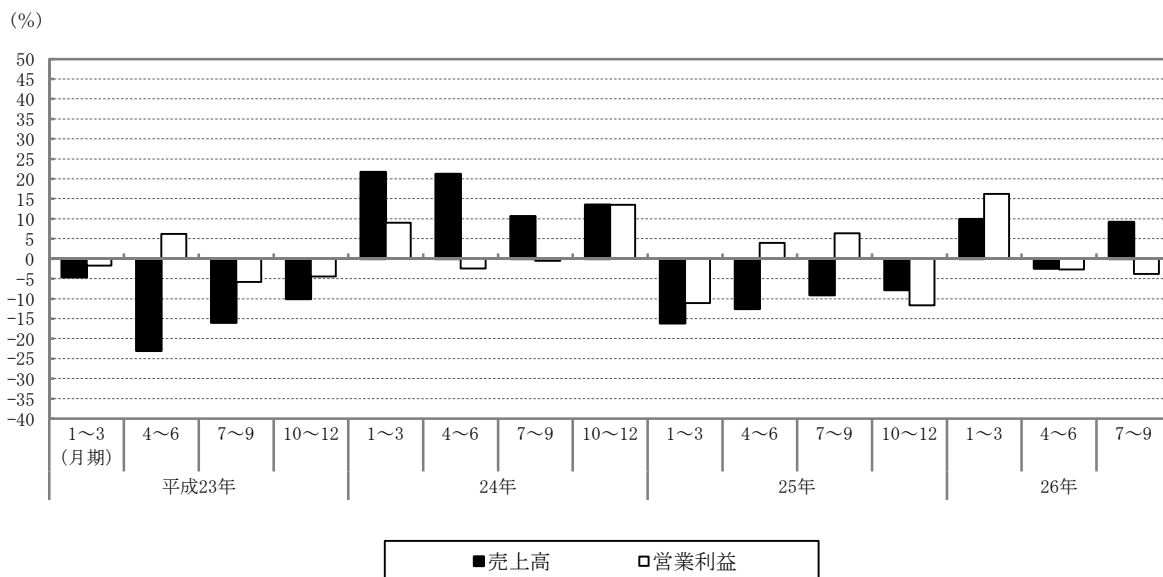
1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は231万4000円で、これに対する費用は売上原価が83万3000円、営業費が85万5000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は62万6000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 9.2% で、2期ぶりに増加した。また、営業利益は(-) 3.8% で、2期連続で減少した。

図33 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 — 製造業 —

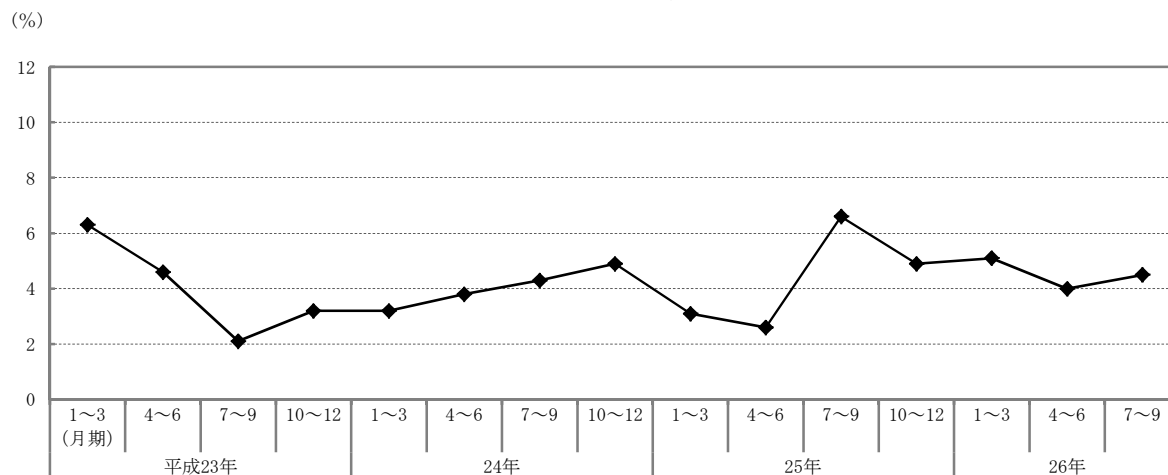


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は10万4000円で、前年同期(13万9000円)を下回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は 4.5% で、前年同期(6.6%)を2.1ポイント下回った。

図34 設備投資率の推移 — 製造業 —



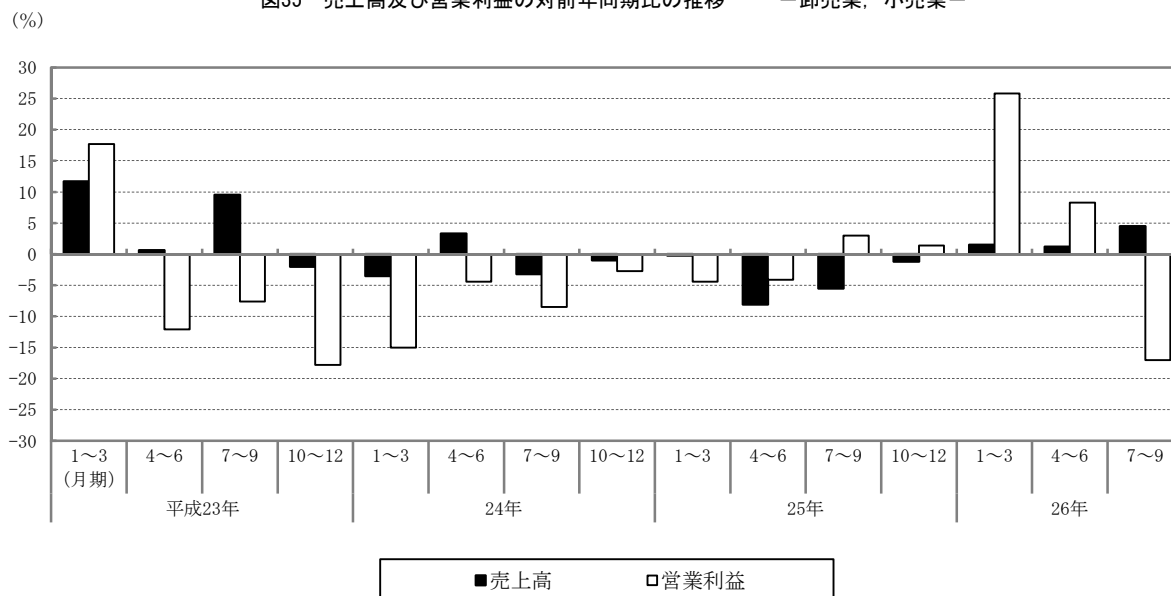
2 卸売業、小売業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は414万6000円で、これに対する費用は売上原価が288万5000円、営業費が89万1000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は37万円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 4.5% で、3期連続で増加した。また、営業利益は(-) 17.0% で、5期ぶりに減少した。

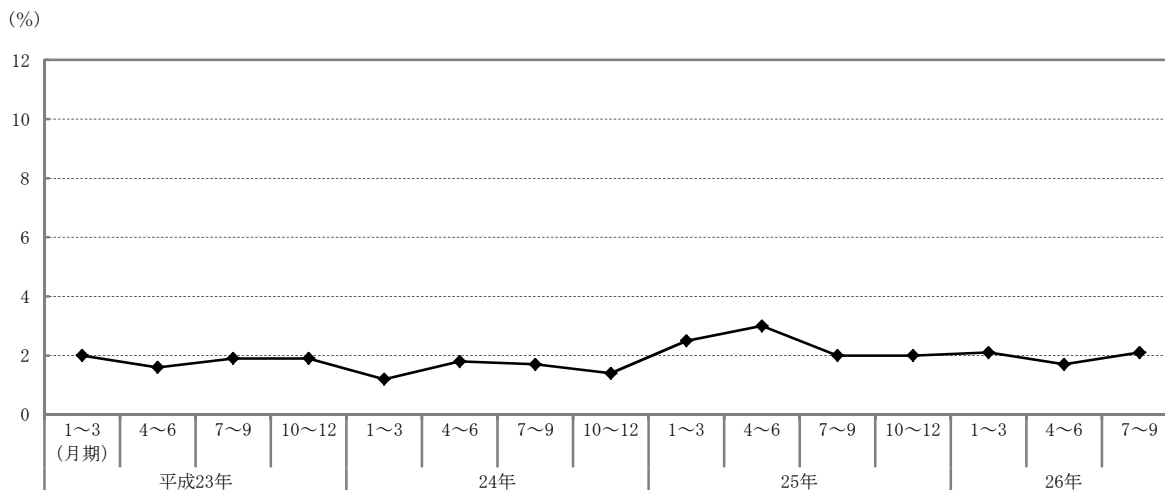
図35 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー卸売業、小売業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は8万5000円で、前年同期(8万1000円)を上回った。また、設備投資率は 2.1% で、前年同期(2.0%)を 0.1 ポイント上回った。

図36 設備投資率の推移 ー卸売業、小売業ー



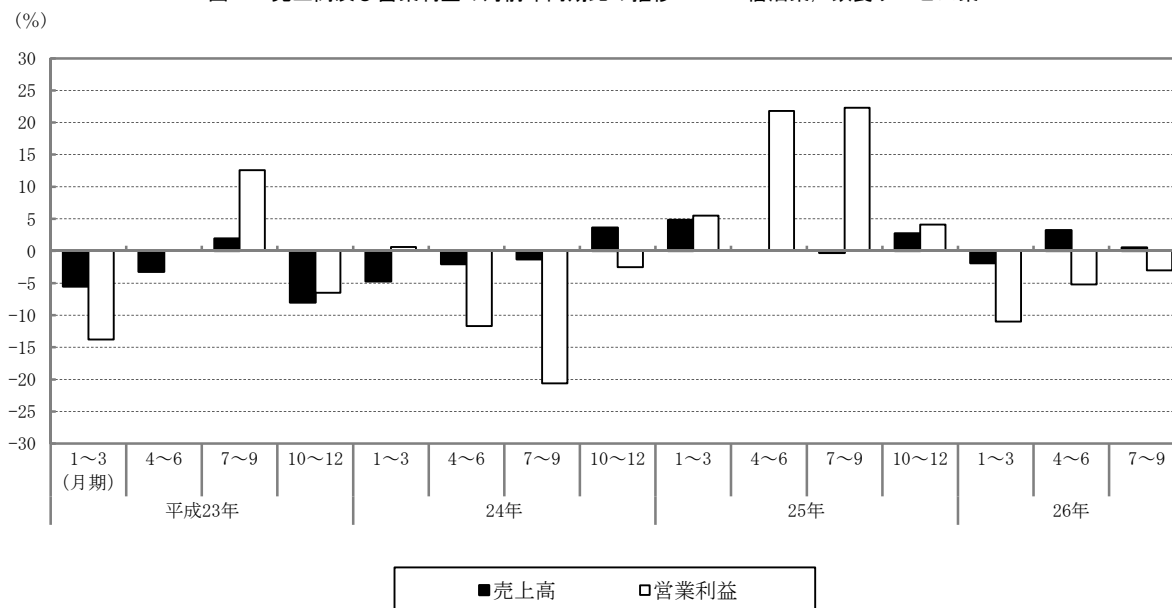
3 宿泊業，飲食サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は216万8000円で、これに対する費用は売上原価が89万7000円、営業費が85万円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は42万円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 0.5% で、2期連続で増加した。また、営業利益は(-) 3.0% で、3期連続で減少した。

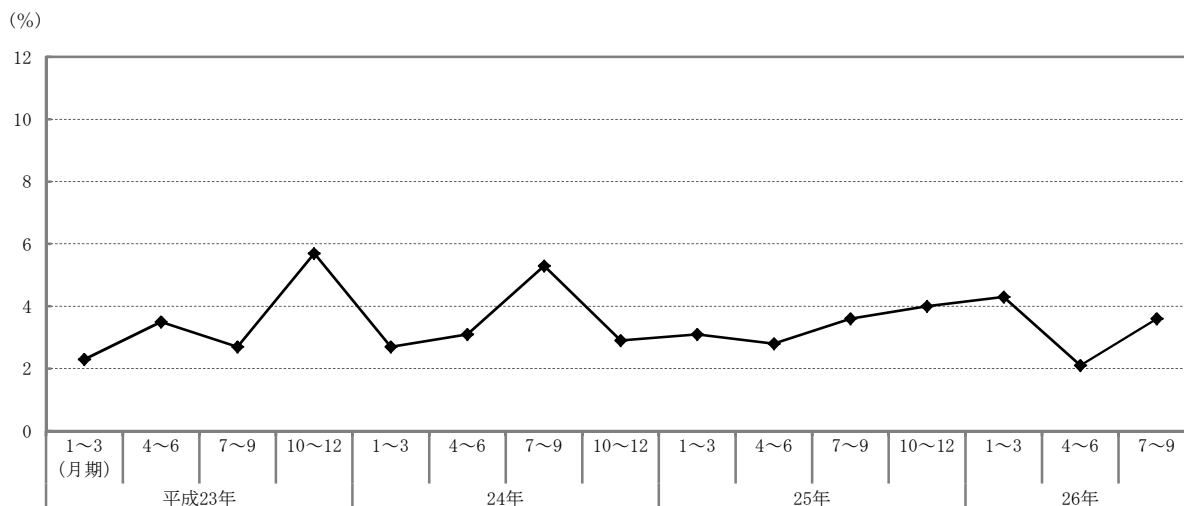
図37 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は7万7000円で、前年同期(7万8000円)を下回った。また、設備投資率は 3.6% で、前年同期(3.6%)と同率となった。

図38 設備投資率の推移 ー宿泊業，飲食サービス業ー



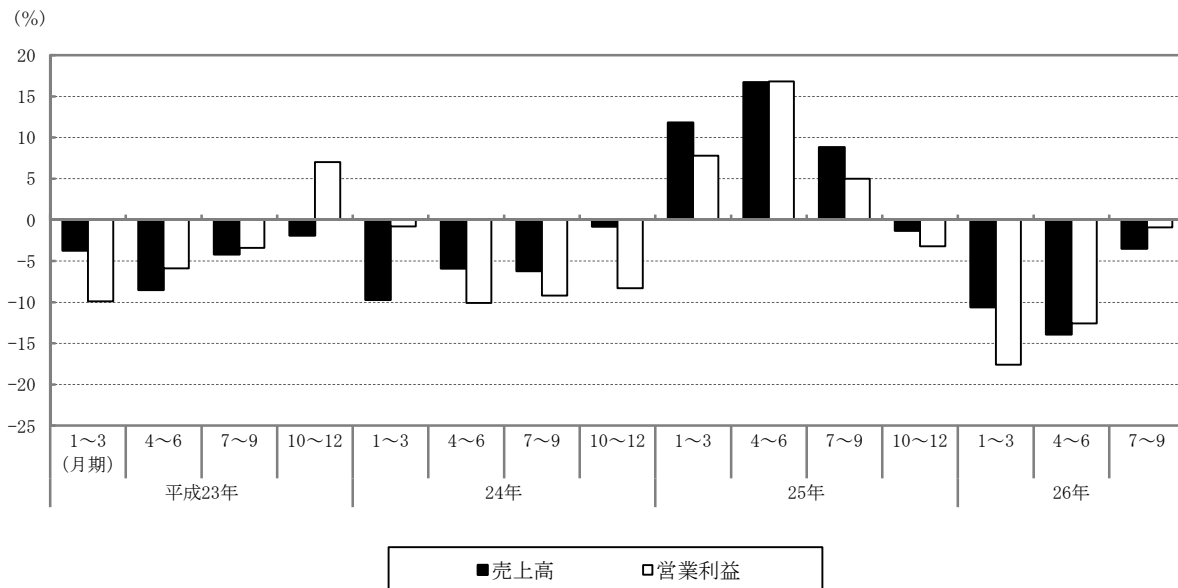
4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は123万円 で、これに対する費用は売上原価が20万4000円、営業費が59万3000円 となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は43万3000円 となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)3.5% で、4期連続で減少した。また、営業利益は(-)0.9% で、4期連続で減少した。

図39 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 -サービス業-



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は4万円 で、前年同期(4万5000円)を下回った。また、設備投資率は3.3% で、前年同期(3.5%)を0.2ポイント下回った。

図40 設備投資率の推移 -サービス業-

